



福島大学における東日本大震災後の 災害対策

福島大学附属図書館

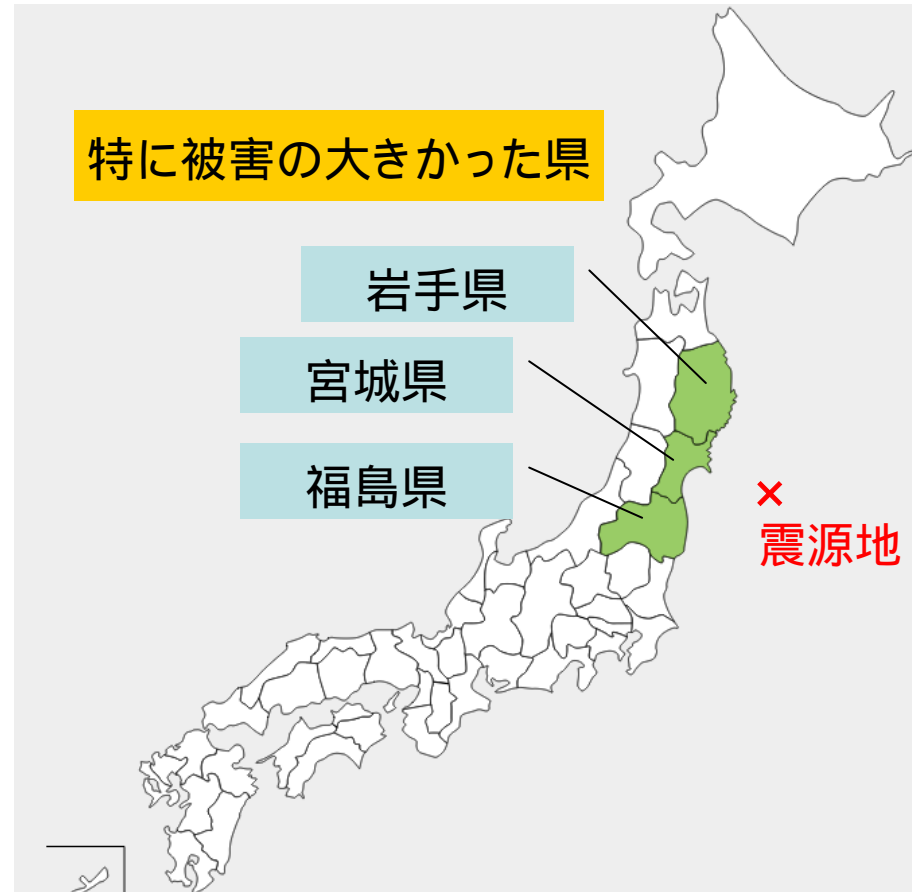
2011年11月

アウトライン

- 1．東日本大震災について
- 2．福島大学における被害状況とその対応
- 3．図書館の被害
- 4．図書館の対応・復旧活動
- 5．他大学や他機関などからの支援
- 6．さいごに

1. 東日本大震災について

1(1)地震の規模・被災状況



- 2011年3月11日14時46分に三陸沖を震源するマグニチュード9.0の巨大地震が発生
- 東日本において強い揺れを観測し、それに伴う津波によってさらに被害が拡大
- 福島第一原子力発電所の事故

1(2) 福島市の被災状況



- 福島市は、震度6弱を観測
- ライフラインや交通に影響
- 福島大学は、福島第一原子力発電所から約58Kmに位置しており、原発事故の影響も受けている

1(3)福島市での生活・復旧状況

	被災状況
ライフライン	ガス … 3/30に完全復旧 電力 … 3/13に完全復旧 水道 … 3/22にはほぼ復旧 (福島市HPより)
交通	JRが4月上旬まで不通。その後も余震により度々運休等あり。 バスは本数を減らして運行
ガソリン	3月末頃まで入手困難
生活物資	水・食料・生活物資不足。地震後数週間はスーパーの休業や短時間営業などにより入手が困難
原発事故に対する不安	現在も継続
風評被害	現在も継続

2. 福島大学における被害状況と その対応

2(1) 福島大学の概要

< 沿 革 >

昭和24年の創立以来、4万人を超える卒業生を教育界、官界、産業界に輩出。設立母体となったのは、福島師範学校、福島青年師範学校、福島高等商業学校、福島経済専門学校で、通算すると福島において130年以上の歴史を刻んでいる。

< 学群・学類、大学院研究科の構成 >

【人文社会学群】	人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類 夜間主コース(現代教養コース)
【理 工 学 群】	共生システム理工学類
【大 学 院】	人間発達文化研究科(M)、地域政策科学研究科(M)、 経済学研究科(M)、共生システム理工学研究科(M,D)

< 在籍学生数 >

約4,600人 学生の大半が大学近郊に居住。県内出身者(4割)・県外出身者(6割)
(参考)福島市の人口293,008人(平成23年3月現在)

< 附属学校園 >

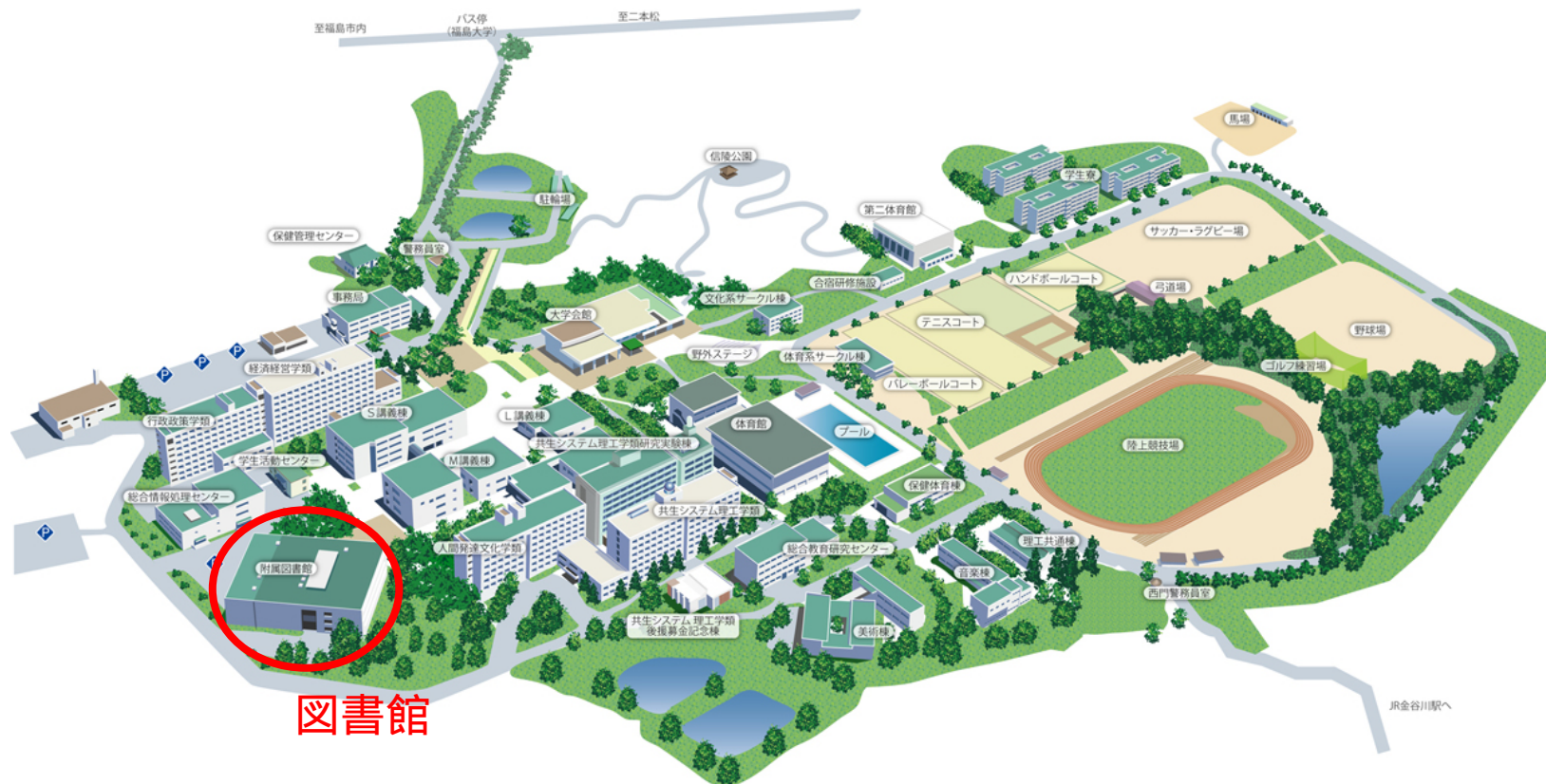
約1,300人【幼児・児童・生徒定員】 附属幼稚園90人 附属小学校720人 附属中学校480人 附属特別支援学校60人

< 在職者数 >

約590人(非常勤を含む) 役員7人 教員244人 事務系職員130人 附属学校教員84人、ほか非常勤等

2(2) キャンパスマップ

キャンパスは1か所にこじんまりとまとまっている(附属学校園を除く)
<http://www.fukushima-u.ac.jp/english/map/index.html>



2(3) 被害状況

1 学生

- ・3月23日に全学生4,659名(非正規生を含む)、附属学校園生徒等1,357名の無事を確認 <3/11は春季休業期間中>
- ・学生被災者200名(主たる家計支持者の自宅全半壊・死亡・離職・警戒区域)

2 教職員

- ・人的被害なし
- ・家屋損傷等7名 うち4名は大学宿舎に入居

3 ライフライン

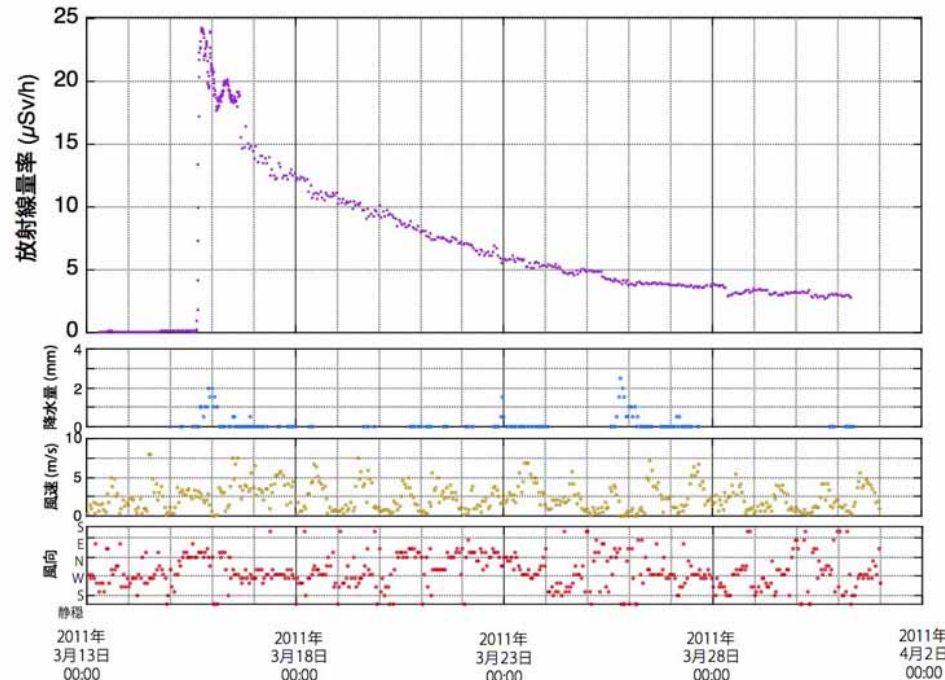
- ・電気,ガスは3月11日(金)の震災時から使用可(金谷川キャンパス)
- ・上水道4月5日(火)から全て復旧(金谷川キャンパス)
- ・中水は4月22日(金)から全て復旧(金谷川キャンパス)
- ・JR東北本線の復旧は4月5日(火)より暫定ダイヤで運転

2(4)地震後の主な大学の対応

- 地震当日(3/11) 危機対策本部を立ち上げ
(学長が本部長となり、副学長・各学類長が本部員、オブザーバーとして、事務職員の管理職)
- HP、テレビテロップ、E-mail、Twitter、電話などを利用した情報提供・学生の情報収集
- 被災した学生への各種支援・被災していな学生のボランティアの推奨
- 地震発生時の初動マニュアル等の作成
- 3/25の卒業式を中止、5/12～新学期の授業開始(約1ヶ月遅れ)
- 子ども支援活動
- 地元自治体や他大学等との連携

など

2(5) 原発事故の経緯



放射線対応を困難たらしめた理由

- 長期的な低線量被ばくの健康影響について、学術的評価が確立していない。
- 事故の推移見通しが全く立たない。

3月12日 8か所のモニタリングポストが機能していないとの報道。
15:36 1号機で水素爆発。半径20km以内の住民に避難指示。

3月14日 3号機で水素爆発。

3月15日 2号機で水素爆発。4号機でも爆発発生。
夕刻より福島市内で高線量率を観測。

3月16日 福島市の水道水からセシウムとヨウ素を検出。...

2(6)原発災害対応

1. 福島大学放射線計測プロジェクトの立ち上げ
→ 共生システム理工学類教員の有志による地域の放射線計測等
2. 福島大学キャンパス内及び附属学校園の放射線計測と除染
3. 「放射線対応マニュアル」「放射線ガイドブック」の作成・配付
4. 学生・教職員対象の「福島大学放射線窓口」を開設
5. 高精度サーベイメータを各部局に配備
6. 放射線被ばく健康影響について、講演会や学習会の開催
7. 放射能漏れを想定した屋内退避訓練

2(7) 研究機関としてのアクション(復興への活動)

うつくしまふくしま未来支援センター(FURE) 構想

事実の調査研究により、新たな安全・安心な未来社会を構築することを目的とする。

福島大学東日本大震災総合支援プロジェクト

福島大学プロジェクト研究所「災害復興研究所」の設置

東日本大震災による福島県の災害復興に寄与するための研究・教育・地域貢献のための組織。自治体や他大学等とも連携。

(4.13: 第13回定例記者会見)

2(8)被災者支援活動

受入施設	最大受入数	延べ人数	期間
大学(金谷川地区)	126名	2,828名	4月30日まで
附属中学校(福島市内)	62名	333名	3月25日まで
附属小学校(福島市内)	3名		3月25日まで

ボランティア学生の支援が大きな推進力となる

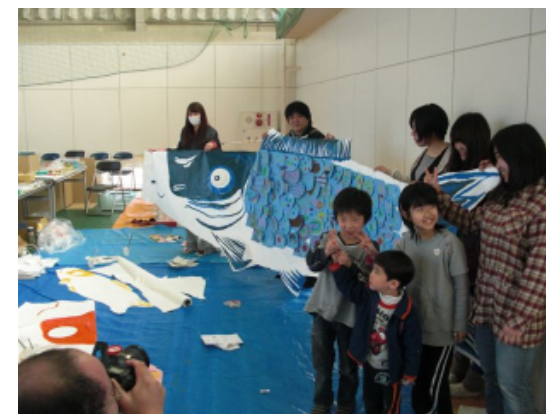
避難所ブースづくり



ごはんの炊き出し



各種イベント



3 . 図書館の被害

3(1) 福島大学附属図書館



<図書館概要>

<http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/gaiyo.pdf>

蔵書

- 蔵書数: 約86万冊
- 雑誌: 約13000誌 他

建物

- 開架閲覧室 1・2階
- 書庫地下1階、地上4層
- その他各種学習室・PC室等

利用者

- 来館者数 約27万人/年(1日平均830人)<2010年度>
- 福島大学の学生・教職員その他、一般市民にも開放

3(2) 人的被害

- 3/11は館内整理で休館中のため、利用者はなく幸いにも人的被害はなかった
- 職員や館内整理のアルバイトは即座に全員の無事を確認

3(3)施設被害

天井・壁のひび, タイルの落下, 点検口の落下, 電動書庫の不具合等

タイルの落下



壁のひび



3(4) 資料被害

図書約143,000冊、雑誌約8000冊、その他900点が落下
http://lib.fukushima-u.ac.jp/oshirase/201103shinsai_higai.htm



書庫



雑誌室



西洋古典資料室
(貴重図書)



開架閲覧室

3(5) サービスの停止

前述のような施設や資料の被害や、余震・原発事故の影響もあり、休館せざるを得ない状況に。



4/23(土)まで休講措置

4/25(月)からの開館に向けて復旧作業

- 被害の状況や開館のスケジュール等については、随時HPなどから情報を発信

4 . 図書館の対応・復旧活動

4(1) 震災後の対応

安心して利用できる学習・研究環境を提供するために

1. 施設・運営

- ・施設の安全確認(施設課による安全確認)
- ・危機管理の見直し
- ・運営体制の見直し

2. 資料の復旧

- ・図書館職員
- ・学内ボランティア

4(2) 危機管理・運営体制の見直し

- ・「危機管理マニュアル」の見直し

実効性のあるものを再作成・定期的な見直し

- ・避難通路の再確認

本の落下防止装置等の設置

- ・書庫入庫の見直し



入庫の際、緊急時対策グッズ(小型ライト・緊急時の連絡先等を記載したネームホルダー・笛)を携帯

- ・ヘルメットや非常時持出袋を準備

4(3) 運営体制の見直し

○ 夜間・土日・祝日の運営体制 (安全を第一に！)

	震災前		震災後	
夜間	学生2名	17:15～21:45	学生2名 職員1名	17:15～20:00
土曜	学生2名	10:00～21:00	学生2名 職員1名	12:30～17:00
日曜・祝日	学生2名	10:00～17:00	-	閉館

緊急時対応のため正規職員等(12名)を配置

○ 開館時間の推移

	～4/24	4/25～5/8	5/9～5/11	5/12～6/30 <5/12より授業開始>	7/1～8/7	8/8～9/30 <夏季休業>	10/1～ <後期授業開始>
平日	休館	13:00～16:00	9:00～17:00	9:00～20:00	9:00～21:00	11:00～17:00	9:00～21:00
土曜	休館	休館	-	12:30～17:00<5月> 10:00～17:00<6月>	10:00～17:00	11:00～17:00	10:00～17:00
日祝日	休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館

落下資料の復旧や余震の減少などにより、徐々に開館時間を延ばしているが、未だ震災前の開館時間には戻っていない。

○ 災害発生時のマニュアルの確認と周知

4(4) 落下資料の復旧

- 落下資料

図書約143,000冊、雑誌約8000冊、その他900点
< 合計約22万点以上 > が落下

- ボランティア (主に教員に呼びかけ)

3月25日～4月15日の間、延べ281人
(土曜・日曜を除く16日間)

教員・生協職員	避難住民	学生・院生	合計
231	48	2	281



4/15には、資料の落下が激しく人手を要する
箇所がほぼ片付き、4/25より開館

4(5) 復旧の様子

ボランティア(避難住民・教員)や図書館職員による復旧作業



4(6)復旧後

復旧後の書架の地震対策

自動図書落下防止装置→



図書落下防止シート

紐による落下防止措置→



4(7) 非常時の備え

事務室に近い場所や、書庫内などにヘルメット / 非常時持出袋を準備



非常時持出袋の中身



4(8) 企画展示(震災・原発・ボランティア関連図書コーナー)



特設コーナーに、
「震災」「原発」「ボランティア」に関する本など約200冊を集め、展示・貸出。



5 . 他大学や他機関などからの支援

他大学や出版社等からの支援(大学 / 図書館)

他大学からの支援

物資の支援、放射線測定機器貸与、技術職員の派遣

他の図書館からの支援

- ・国立 / 私立大学図書館協会加盟館等の図書館利用
- ・公共図書館でのレファレンス支援

出版社等

- ・災害関係 / 放射線関係等の論文・書籍の無料公開
- ・電子ジャーナルやデータベースの期限付き無償利用

6 . さいごに



3/11の大地震による災害は、我々も初めて
経験する未曾有の大震災となりましたが、
国内外から沢山の支援をいただき、一人
一人の大きな支えとなりました。

心より感謝申し上げます。